

令和元年度 市民意識調査の結果について

企画部企画調整課

将来都市像である「夢ふくらみ 安心して暮らせる 元気都市 いせさき」の実現に向け、計画的にまちづくりを進めている中で、現状の市の取組に対する市民意識の動向を把握し、第2次総合計画後期基本計画の策定や総合戦略の進行管理、今後のまちづくりの基礎資料とするため、下記のとおり「市民意識調査」を実施し、その結果をとりまとめました。840人から回答をいただき、回答率は42.0%となっています。

記

- | | |
|---------|---|
| 1 調査地域 | 伊勢崎市全域 |
| 2 調査対象者 | 伊勢崎市に在住する満20歳以上の人 |
| 3 サンプル数 | 2,000人 |
| 4 抽出方法 | 住民基本台帳から無作為抽出 |
| 5 実施方法 | 調査票を郵送し、回答のうえ同封の返信用封筒にて返送 |
| 6 調査期間 | 平成31年4月1日（月）～平成31年4月20日（土） |
| 7 調査項目 | 伊勢崎市の住みよさについての項目、第2次伊勢崎市総合計画後期基本計画（案）の各施策についての満足度・重要度を把握するための項目及び回答者の属性 |
| 8 公 開 | 報告書は企画調整課、市民情報コーナー（市役所・各支所）、各図書館で閲覧できます。市ホームページでも公開しています。 |

令和元年度 市民意識調査 結果概要

1 伊勢崎市の住みよさ

【設問】あなたは、伊勢崎市の住みよさについて、どのように感じていますか。

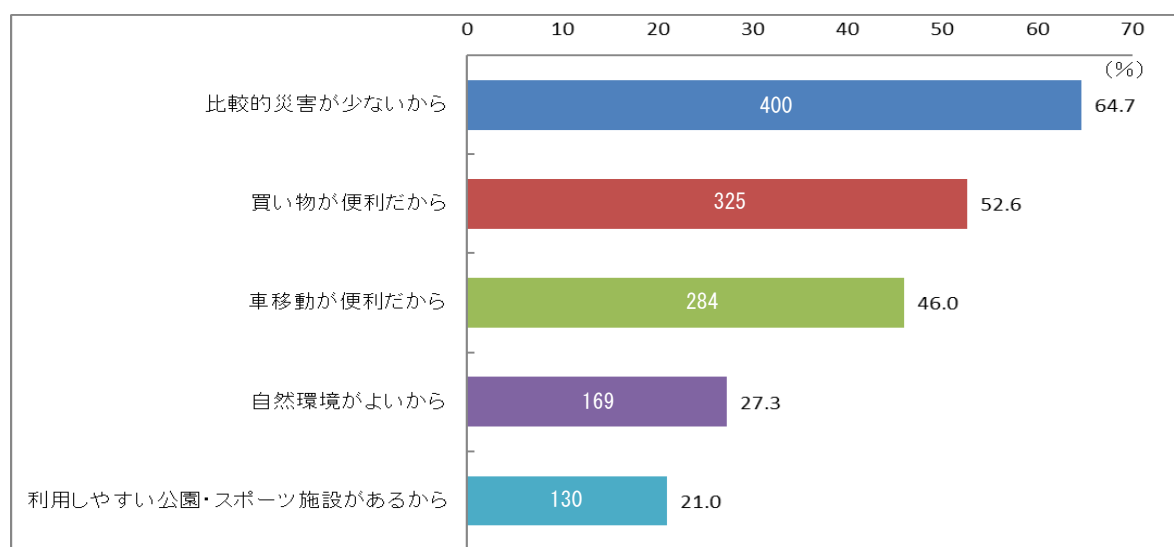
(16ページ)

【回答】「どちらかといえば住みよい」を含め「住みよい」と回答した人は618人(73.6%)、「どちらともいえない」と回答した人は109人(13.0%)、「どちらかといえば住みにくい」を含め「住みにくい」と回答した人は91人(10.8%)、「無回答」が22人(2.6%)となり、7割以上の人が「どちらかといえば住みよい」を含め「住みよい」と回答した。

分類	回答数	比率
住みよい	245	29.2%
どちらかといえば住みよい	373	44.4%
どちらともいえない	109	13.0%
どちらかといえば住みにくい	78	9.3%
住みにくい	13	1.5%
無回答	22	2.6%
計	840	100%

【設問】「住みよい」または「どちらかといえば住みよい」を選んだ理由(18ページ)

【回答】「比較的災害が少ないから」と回答した人が最も多く、400人(64.7%)となっている。以下、「買い物が便利だから」が325人(52.6%)、「車移動が便利だから」が284人(46.0%)と続いている。(複数回答)



2 総合計画後期基本計画（案）の体系に基づく各施策についての満足度・重要度

満足度が高い施策（24ページ）

- 1位 安定した水道水の供給
- 2位 健康づくりと疾病予防の推進
- 3位 水と緑の空間の形成

「安定した水道水の供給」が昨年度に引き続き1位、「健康づくりと疾病予防の推進」が昨年度に引き続き2位、「水と緑の空間の形成」が昨年度6位から3位という結果になりました。

重要度が高い施策（25ページ）

- 1位 安定した水道水の供給
- 2位 地域医療体制の充実
- 3位 防犯対策の強化

「安定した水道水の供給」が昨年度2位から1位、「防犯対策の強化」が昨年度4位から3位という結果になりました。

重要度が高く、満足度が低い施策（29ページ）

- ・ 障害者福祉の充実
- ・ 防犯対策の強化
- ・ 消費者保護対策の充実
- ・ 道路の整備と管理
- ・ 高齢者福祉の充実
- ・ 安定的な財政運営の推進
- ・ 医療・年金制度の円滑な運営
- ・ 交通安全対策の推進
- ・ 災害に強いまちづくり
- ・ 適切な生活排水処理の推進
- ・ 危機管理体制の充実

※満足度を向上させられるよう、最優先で改善すべき重点改善施策は、11施策ありました。